

第1章 都市づくりのグランドデザインの役割

- ・目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を示します。
- ・将来の社会経済情勢の変化に対応でき、持続可能な成長を促すため、2040年代を目標時期として設定します。
- ・「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」実現の礎となる都市づくりを推進します。

第2章 2040年代の社会状況や都民の活動イメージ

1 東京の人口予測

- ・人口は2025年をピークに減少局面へ

2 社会状況の見込み

- ・世界の人々の往来が活発化
- ・国内外をつなぐ広域的なインフラが充実

3 技術革新の見込み

- ・自動運転技術
- ・エネルギー・環境技術
- ・人工知能（AI）技術
- ・情報・通信技術

4 2040年代における都民の活動イメージ

◆世界を舞台に活躍

- ・ビジネスや研究、文化、食など、様々な分野においてグローバルに活躍しやすくなり、豊かな生活を実感しています。

◆誰もがいきいきと交流・活躍

- ・若者、女性、高齢者、障害者、外国人など、誰もが意欲と能力を生かして自由に交流し、多様な人々がコミュニティを支え、いきいきと活躍しています。

◆多様なライフスタイルを選択

- ・平日・休日という感覚がなくなるなど、個人の価値観やライフスタイルに合わせて暮らし方・働き方を選ぶことができ、自由でゆとりのある暮らしを送っています。

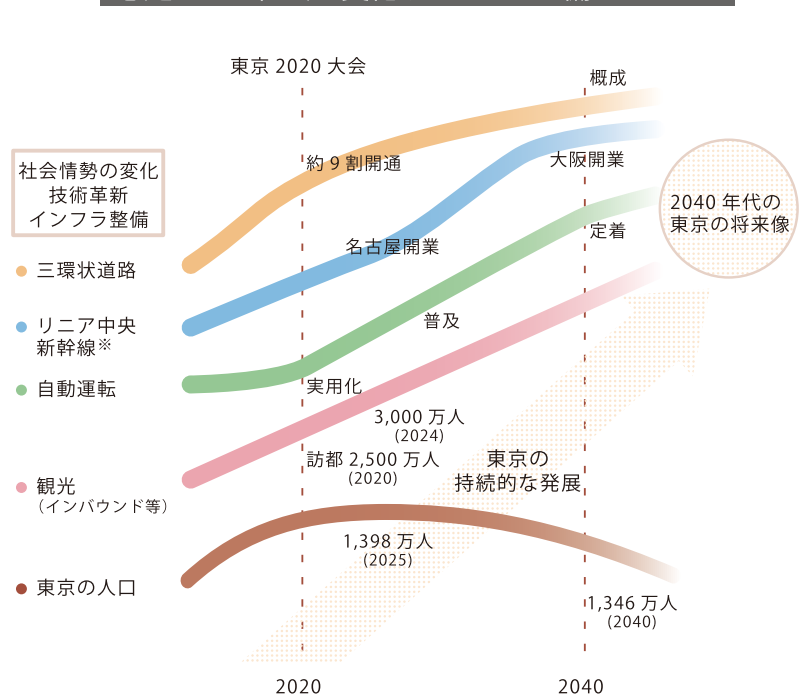
◆自然に親しむ

- ・緑や水の安らぎや潤いを身近に感じ、快適な生活を楽しんでいます。

◆安心して住み続ける

- ・安全・安心な環境の中で、多様な文化を受け入れ活気のある東京らしさを感じながら暮らしています。

想定される社会の変化やインフラ整備のイメージ



第3章 東京が果たすべき役割

1 世界における役割

- ・包容力を持ち、多様な人々・文化の交流を育みます。
- ・都市課題の先駆的な解決モデルを構築・発信します。
- ・伝統と先進を融合させ、新たな価値を創出します。

2 日本における役割

- ・日本の首都として経済活動の推進力を発揮します。
- ・様々な地域と連携し、一層魅力的な日本を創造・発信します。

第4章 目指すべき新しい都市像

1 都市づくりの目標

「活力とゆとりのある高度成熟都市」 ～東京の未来を創ろう～

- ・新たな価値を生み続ける舞台として世界中の人々から選択されるとともに、個々人が、様々な地域で住まい方、働き方、憩い方を選択できる都市を目指します。
- ・高度に成熟した都市として、環境への配慮（Environment）、社会への貢献（Social）、都市のマネジメント（Governance）、いわゆる「ESG」の概念も取り込み、最先端技術も活用しながらゼロエミッション東京を目指します。
- ・みどりを守り、まちを守り、人を守る。あわせて、東京ならではの価値を高め、持続可能な都市・東京を実現していきます。

環境負荷の低減と、活力・にぎわいの創出を両立し、ゼロエミッション東京を実現



安全・安心で誰もがいきいきと活躍できる社会の実現

都市づくりのサイクル（調査・計画、整備・開発、維持管理・活用、更新）を見据えた取組の推進

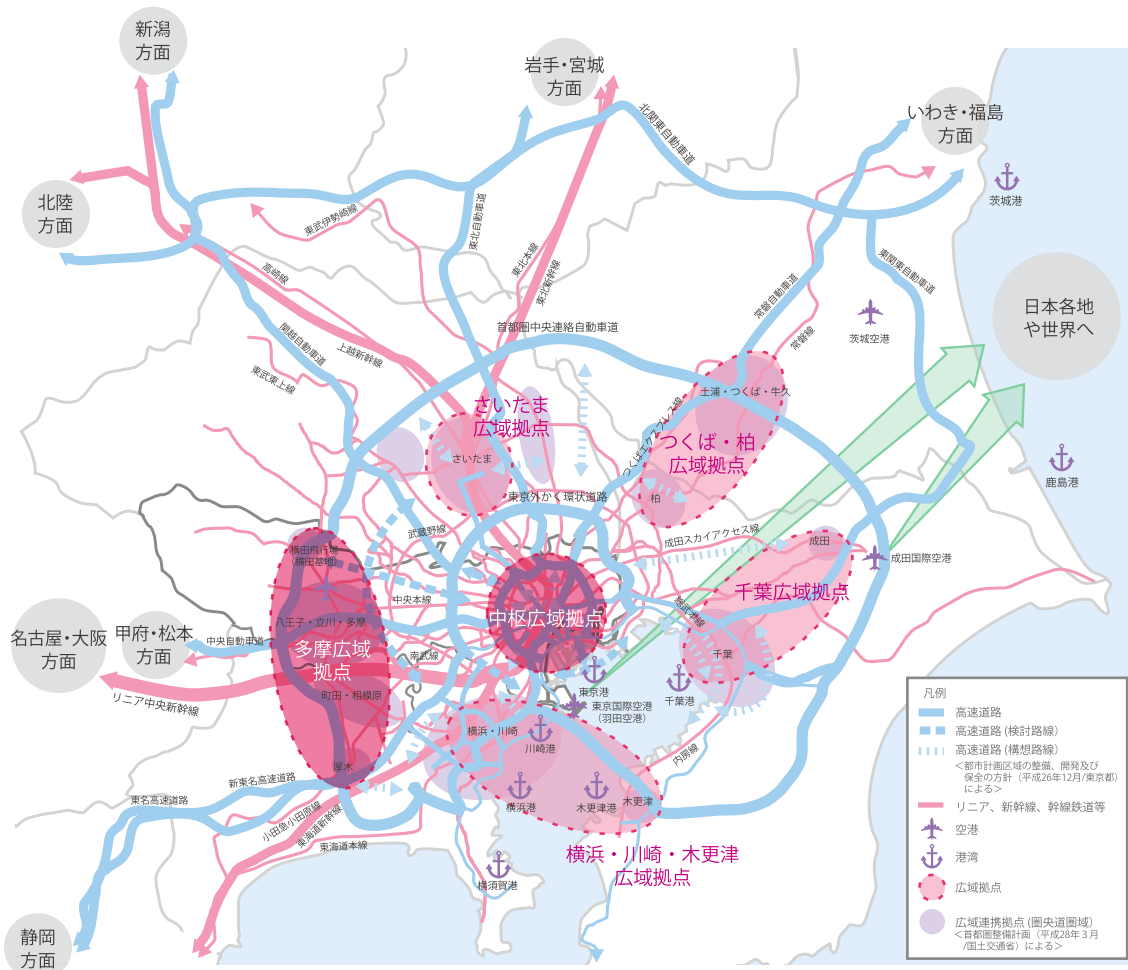
2 目指すべき都市構造

急激な社会変化を見据え、広域レベルと地域レベルの二層の都市構造を示すことで、都市活力の維持・向上と快適でゆとりのある都市生活を両立していきます。

◆広域的なレベルの都市構造

- ・世界最大の都市圏の活力を更に高めながら、多様化するライフスタイルなどに応えることができ、イノベーションの源泉となる「挑戦の場」の創出につなげます。

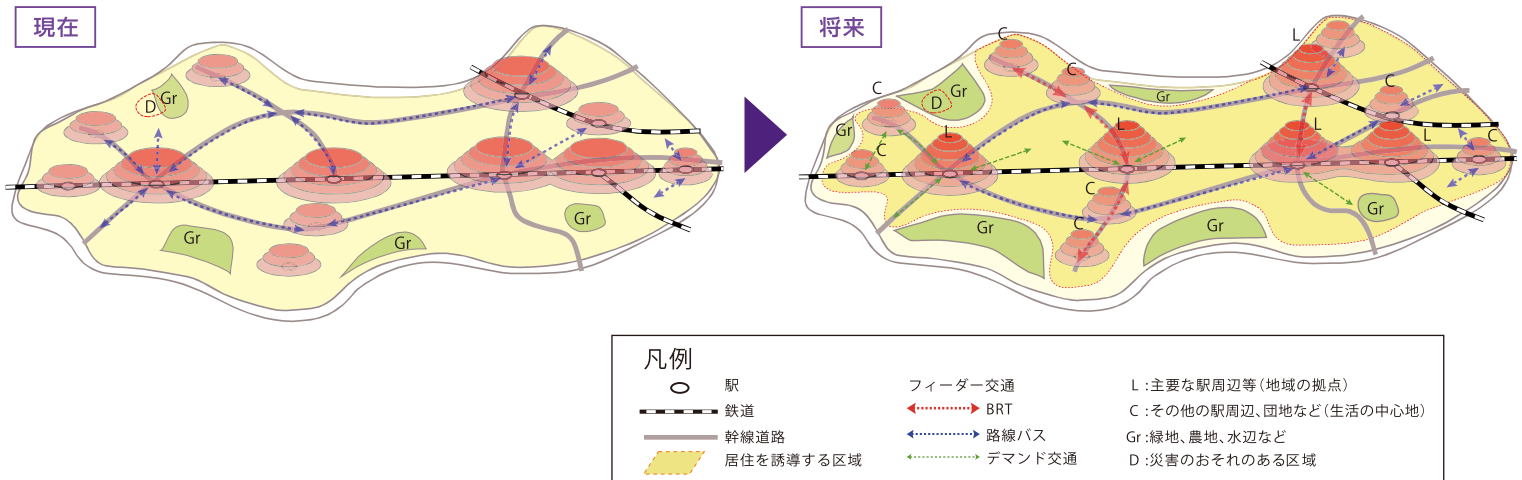
交流・連携・挑戦の都市構造



◆地域的なレベルの都市構造

- ・ 主要な駅周辺や身近な中心地に生活に必要な機能の集積を進めます。
- ・ その徒歩圏に住宅市街地を誘導し、歩いて暮らせるまちへと再構築します。
- ・ 駅や中心地から離れた地域に、緑豊かな良質な環境を形成します。

集約型の地域構造のイメージ



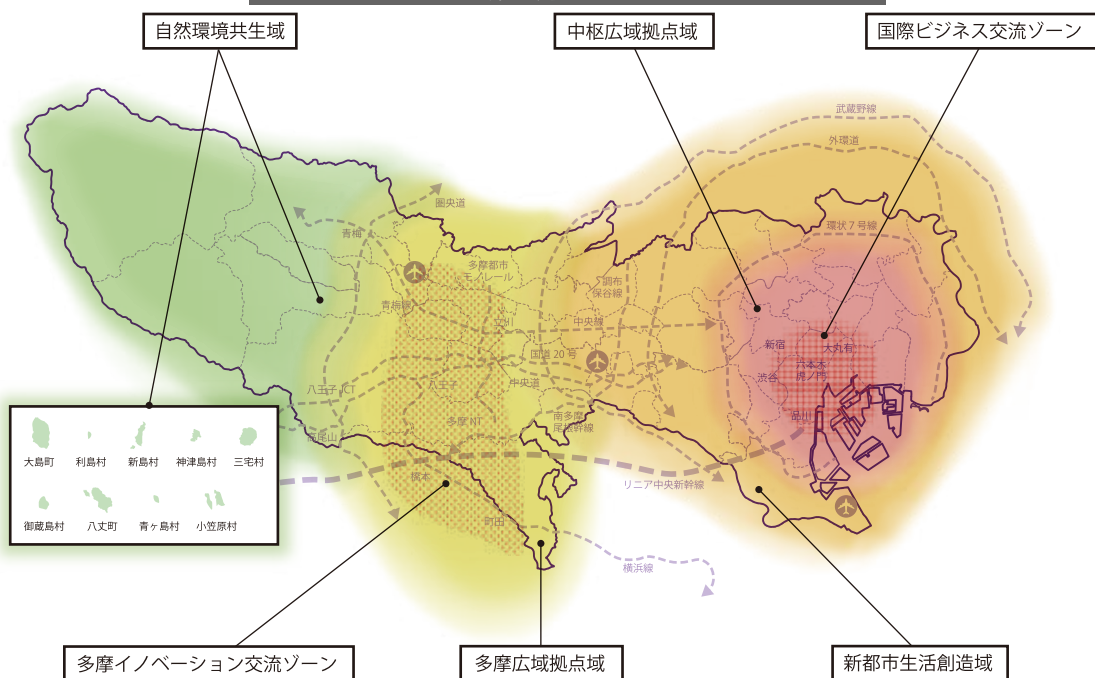
◆「個性」に着目した地域づくりと新たな土地利用の展開

- ・ 個性ある多様な拠点をつくり、地域軸でつなげます。
- ・ 土地利用に新たな視点を重ね合わせます。
- ・ 柔軟性のある複合的な土地利用を進めます。

3 新たな地域区分

- ・ 区部中心部と臨海部の一体的な発展を見据えた新たな4つの地域区分
 - 中核広域拠点域…おおむね環状七号線内側の区域
 - 新都市生活創造域…おおむね環状七号線から西側はJR武蔵野線まで、東側は都県境までの区域
 - 多摩広域拠点域…おおむねJR武蔵野線から圏央道までの区域
 - 自然環境共生域…おおむね圏央道の外側及び島しょ部の区域
- ・ 日本と東京のエンジンとなる2つのゾーン

4つの地域区分と2つのゾーン



※ 隣り合う地域区分の境界域は、相互の地域特性が緩やかに変化・融合しながら連続性を持っています。

※ ゾーンの範囲は、高度な都市機能の集積や競争力のある研究開発機能の集積など、既存のストックを効果的に活用するとともに社会経済情勢の変化に対応しながら変容し得るものです。